

基本に忠実に 努力を怠らず表現力を磨く

第33回全日本武術太極拳選手権大会

女子ジュニア太極拳2 優勝

森冬姫子さん

モリ・トキコ 14歳 松尾中3年II



平成14年生まれ。小学校1年時から太極拳を習い始める。中学ではスキー部(クロスカントリー)にも所属。第33回全日本武術太極拳選手権大会女子ジュニア太極拳2の部【満18歳以下】(7月10日、東京体育館)で初優勝を飾る。

「優勝が決まった時は、本当に嬉しかった。これまでの頑張りが実を結びました」と、はにかむのは、第33回全日本武術太極拳選手権大会女子ジュニア太極拳2の部で優勝した森冬姫子さん。冬姫子さんは、太極拳を趣味としている母・雅(みやび)さんの影響を受け、小学1年生でその道を歩み始めました。現在は、盛岡市で週に3、4回の練習を積みまます。中国武術の一つで、伸びやかかつ大きくゆっくりとした動作が特徴の太極拳。「演武は見た目の美しさが評価につながります。自分が理想とする武術らしく伸びやかな動作が出来た時の達成感を味わえることが太極拳の醍醐味です」と、その魅力を語ります。中学ではスキー部に所属し、クロスカントリーにも取り組む冬

太極拳の中で得意なポーズのひとつ 蹬脚



姫子さん。「太極拳もスキーもバランス感覚・体幹の強さ・筋力が重要。両立することで、相乗効果が得られていると思います。どちらも競技者としてもっと高みを目指したいです」と瞳を輝かせます。「太極拳において表現力を高めるためにはとにかく基本に忠実に練習を行うことです」と冬姫子さん。今後について「全国で上位入賞を重ね、アジアなどで開催される国際大会に出場したい」と、抱負を述べました。

編集後記

▽キップラグビーの復興支援イベントを取材しました。ダン・カーターさんが、子どもたちに動きやパスを教えている姿、その熱心な指導から少しでも技術を吸収しようとする子どもたち。カメラで撮影しながら側で見ていた私も、そのやりとりが胸が熱くなりました。イベントに参加した子どもたちは、これからもっと練習をして強くなると思っています。再来月に開催される岩手国体や、2019年のワールドカップに向けて応援していきたいと思いました。(龍)

▽昨年取材で、市内の山々を数座渡り歩きましたが、正直しんどい思いのほうが強かったです。ところが、今年は昨年比べて下山後の疲労感が少ないような気がします。ただ登頂することだけを考えると、たたくと登って来た昨年。今年は、植物に目を向けたり鳥のさえずりを聞いたり、周りに気を取られる余裕も出てきました。市内の愛好家の人たちのネットワークが広がっていることも登山を楽しいと思うひとつの理由に。同行してくれる人たちのサポートの効果は絶大です。▽味覚はシチュエーションやロケーションに影響されると言われますが、山中で飲食するコーヒーやカップラーメンは地上のそれよりも格段に美味しい！▽そうして登山の魅力に少しずつひかれていった私は、今回の取材をきっかけに「理容アイドル登山部」の門を叩くのであります。(沙)